

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	下関市社協 グループホームたんぼぼ		
所在地	山口県下関市豊北町矢玉129番地		
電話番号	083-788-0038	事業所番号	3570101935
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		

訪問調査日	平成 21 年 2 月 23 日	評価確定日	平成 21 年 4 月 8 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	6 人
職員数	7 人	常勤 3 人 非常勤 4 人 (常勤換算 6.2 人)	

(2) 建物概要

建物構造	木造		造り	
	2 階建ての	1	~	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 20,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
その他の費用	月額 20,000 円			
	内訳 光熱水費 (10,000円)		日常生活費 (10,000円)	

(4) 利用者の概要 (1月22日現在)

利用者数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
	要介護 1	1	要介護 4	3	
	要介護 2	1	要介護 5	1	
	要介護 3	0	要支援 2	0	
年齢	平均 86.7 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 豊北病院 重本病院 歯科 佐々木歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

漁村の旧家を改装したホームで、地域との交流が深く、地域の一員として溶け込み、地域に密着したサービスや地域とのふれあいが良くできています。地域住民の訪問や職員が相談にのったり、一人暮らしの高齢者の手助けをしたりと、日々のかかわりからも地域の協力体制につながっています。医療において、近隣の医療機関の緊急の往診や助言など協力体制も良く、利用者、家族、職員の安心・安全になっています。

(特徴的な取組等)

運営推進会議のメンバーに地域住民の多くの協力を得て、約20名で会議が行なわれています。ホームの行事などに多くの人の協力や参加を得ており、緊急連絡網も整備され、また緊急時の支援体制や防災マップも整えられ始めています。運営推進会議のメンバーと共に、他のホームの見学もしています。家族には毎月職員の手書きによる手紙を送り、利用者の様子を知らせ、定期的なホーム便りの送付や家族会の開催、行事(お花見やお祭り)など、利用者・家族・職員とのつながりも大切に介護に活かしています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

評価結果は職員会議や運営推進会議で報告しています。評価の改善点を話し合い、ケアに活かしています。苦情処理の手続きについては、事業所全体で検討しています。

(今回の自己評価の取組状況)

職員全員に自己評価書を渡し、会議時に検討し、管理者がまとめられました。

(運営推進会議の取組状況)

家族、自治会長、民生児童委員、老人会長、学識経験者、ボランティア、役場職員、地域包括支援センター職員など20名のメンバーで、2ヶ月ごとに開催されています。他のホームの見学、行事の計画・協力・参加、外部評価報告などを議題として開催され、防災マップも作り始められています。

(家族との連携状況)

家族の面会時に、ホームでの様子、健康状態などを伝え、家族からの要望や意見を聞かれています。毎月のホームからの手紙や定期的なホーム便りを送り、利用者の様子を知らせておられます。また家族と一緒に花見(つつじ、あじさい、コスモスなど)をしたり、家族会の開催など、家族と関わる機会をもたれ連携しておられます。

(地域との連携状況)

ご近所の関係で地域の方々が話に来られたり、日々の散歩で出会う人々との会話や地域の店での買い物など地域の一員としての関係ができています。また一人暮らしの高齢者にはゴミ出しを手伝ったり、作ったおかずをおすそ分けしたりすることもあります。地域住民を含めた緊急連絡網を整備し、防災マップ作りも始められています。

あ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「地域の中で その人らしく ありのままに 暮らしていけるように 支援する」ことを基本理念とし、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作っている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関に理念を掲示して、管理者と職員全員で共有している。利用者の介護度にあわせ、理念に添った支援が出来るように、日々のミーティングやケア会議で取り上げ、理念の実践に取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の行事(お祭りなど)に参加したり、ホームの行事には運営推進会議のメンバーや多くの地域住民の協力や参加がある。また、近所の住民が話しに来たり、職員が様々な相談に応じたり、日頃からの交流がある。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員全員が評価の意義を理解し、検討し、管理者がまとめている。自己評価を通じて、意識の向上、現状の見直しとなっている。記録様式や家族に渡す書類の見直しなど、具体的な改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回、家族や地域住民の代表など約20名の参加で会議を開催し、評価結果や現状報告・意見交換を行い、サービスに活かしている。警察や消防署職員の参加はない。</p>	<p>・運営推進会議への警察や消防署職員の参加</p>
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>ホーム便りなどの情報を提供したり、ホーム職員の勉強会にも出席してもらっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月手書きの手紙を送り、日頃の様子や健康状態を知らせたり、家族会や面会時に利用者の事だけでなく、ホームの運営や職員体制、金銭管理の確認など様々な情報交換を行なっている。また定期的にホーム便り(日常や行事での写真が掲示されている)を送付している。緊急を要する時は、電話で連絡を取っている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関に苦情意見箱の設置や相談窓口・外部機関・第三者委員などを掲示している。苦情に対するマニュアルも作成中である。何でも言えるような雰囲気作り心がけ、家族会や面会時に意見や要望を聞き、日々の介護に活かしている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	外出支援や行事、家族の要望などに、柔軟な対応ができるような勤務体制にしている。緊急な場合は、勤務変更を行い、利用者や家族が安心できる体制をとっている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職を少なくし、異動時は馴染みの職員が継続して支える体制を取るようになっている。新採用の場合は各勤務帯を重複勤務し、利用者が安心して過ごせるように配慮している。家族にはホーム便りや面会時に知らしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	非常勤職員を含め、本人の希望を尊重し、計画的に研修の機会を提供し、参加し復命伝達も行なっている。毎月、勉強会も行なっている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や法人内の運営会議、グループホーム会議で勉強会や意見交換をし、相互訪問などを行い、サービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に利用者、家族に面接し、施設の見学や一緒に過ごすなどし、馴染みの関係を作り、納得の上でサービスを開始している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>包丁が使えなくなった方には、ちぎる・割くなど利用者の出来る方法で声をかけたり、雑巾縫いや洗濯物たたみなど職員と一緒にしない、過ごしている。「お願いします」「ありがとうございます」などの感謝の言葉をかけながら、常に一方的な介護にならないように支援している。</p>	
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居時の情報、日々の会話や様子などから、利用者や家族の思いや意向を把握するように努めている。</p>	
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族との日頃からのかかわりの中から、思いや意向を把握し、会議で情報の共有を図り、意見やアイデアを反映させた個別・具体的な介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>基本的な見直しは6ヶ月としているが、毎月ケアカンファレンスを開催し、計画の見直しや確認をしている。変化が生じた時には、随時現状に即した計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>本人家族の要望や状況に応じて、通院介助や送迎等、必要な支援を個別に柔軟に対応をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用時に希望の医療や通院の仕方を確認し、適切な医療が受けられるように支援している。協力医による往診や、緊急時、休日においても支援を行っており、結果は家族に報告している。かかりつけ医への受診は基本的には家族が付き添い、報告を受けている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用時に本人・家族と話し合っている。重度化した場合、状況に応じて、早い段階から担当医や家族と話し合い、前向きに検討し全員で方針を共有している。法人全体で終末期の対応を検討している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーについて、ミーティングや研修の機会を通じて意識向上に努め、日々十分な注意や配慮に努めている。個人情報に伴う記録物の取り扱いにも、注意を払っている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	スケジュールはなく、その人らしい暮らしができるように、一人ひとりの希望に添って、その日の状態やその人のペースに合わせた支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで調理している。利用者の好みを取り入れた献立で、買い物、調理、後片付けなど、一人ひとりの出来ること、見守りで出来ることを見つけながら、共に行なっている。職員も一緒に食卓を囲み、支援をしながら、皆が楽しみながら食事をしていた。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴ができ、一人ひとりの生活のリズムや、本人の希望に合わせて入浴している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を把握し、活躍できる場面作りをしている。雑巾縫い、歌、塗り絵や折り紙を楽しんだり、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみなど、張り合いや生き甲斐に向けての支援が行なわれている。縫い上がった雑巾は、訪問者が自由に持ち帰られるように、「自由にどうぞ」と張り紙がして玄関先に置かれていた。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に添って、日常的に散歩したり、買い物やドライブの支援をしている。季節を肌で感じられる四季折々の花見は、家族や運営推進会議のメンバーも同行している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	職場内研修や勉強会を通じ、全職員が理解した上で拘束のない介護に取り組んでいる。スピーチロックなど無意識の虐待にならないように目配りしている。危険が予想される時は、十分な注意(頻回の巡視)や家族と話し合い、ケアプランに入れて対応している。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関に施錠しないようにしている。職員が手薄になる入浴時のみ家族の了解のもとで施錠している。外出傾向のある利用者の把握をし、寄り添うなどし、また地域の協力も得ている。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、訓練も実施している。地域住民を含めた緊急連絡網を整備し地域の協力体制の下で事故防止に努めている。ヒヤリはっと・事故報告書もきちんと記録され、状態に応じた対応がなされている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成している。全職員が応急手当が出来るように、消防署員による人工呼吸法、AEDの使用法の説明と実技を学んでいる。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策マニュアルを作成しており、運営推進会議を通じて地域住民との協力体制ができています。消防署との訓練の他、職員間での訓練も行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬について一人ひとりの情報を把握し、分らない場合は医師に相談している。服薬は、一回ずつ手渡し服用するまで見守り、投薬ミスを防止している。必要な情報は医師にフィードバックし、薬の変更時は記録や申し送りで周知を図っている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後声かけを行い、利用者の状況に合わせて支援している。ブラシ類、コップ、義歯は定期的に消毒や洗浄剤を使用し、清潔な保管の支援をしている。歯科受診の必要な場合は、家族の協力を得ながら行なっている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の体調、体重の変化、食事量や水分摂取量を記録し、情報を共有している。献立を定期的に管理栄養士にチェックしてもらい、専門的な指導や助言を得ている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、全職員で学習し、感染予防や対策に努めている。外出後のうがいや手洗いの励行、消毒、予防接種など感染防止に努めている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	回り廊下に手すりを設け、利用者の生活に合わせて、廊下に椅子を置き、生活しやすいように工夫している。食堂の横には炬燵のある茶の間があり、利用者が思い思いの居場所ですごしていた。生花や作品、お雛様が飾られ、季節を感じながら、居心地よく過ごせるように配慮している。民家改修で、調理時の音や匂いは食事までの楽しみになっている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の好みの写真やポスター、ぬいぐるみを置いたり、使い慣れた家具、仏壇などが置かれ、本人や家族が居心地よく過ごせるようにしている。状況に応じ、本人の希望に添って、家族と相談しながら工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	下関市社協 グループホームたんぼぼ
所在地	下関市豊北町矢玉129番地
電話番号	083-788-0038
開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

【考え方】

病気や生活の変化、遺伝などによって生じる認知症をいつ自分たちにも現れるかもしれないという気持ちでやさしくゆとりある介護にあたっていきます。

【接し方】

本人のプライドを傷つけないゆとりある心で接するなど、その人の気持ちの理解に努めます。

【体制】

認知症について理解を深めるために質のある研修に参加します。

音楽・園芸・調理などを通じて一緒に作ったり収穫を喜び認知症の進行を少しでも遅らせます。

職員会議及び事例検討を毎月行い資質の向上に努めます。

【交流】

地域で行われる行事に可能な限り参加します。

日常も気楽にホームに立ち寄れるような雰囲気作りに努めます。

広報誌を発行し家族や地域の人にも理解してもらえるように努めます。

【特徴】

民家改修型の特性を活かし家庭的な雰囲気のあるホームを目指します。

ゆっくり、楽しく、ありのままがモットーのホームです。

入居者の人格を尊重し、その人らしい生活を支援します。

地域と共に歩みます。

【実施ユニットの概要】 (1月22日現在)

ユニットの名称	グループホームたんぼぼ		
ユニットの定員	6 名		
ユニットの利用者数	6 名	男性 名	女性 6 名
	要介護1	1	要介護4 3
	要介護2	1	要介護5 1
	要介護3		要支援2
年齢構成	平均 86, 7 歳	最低 80 歳	最高 93 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	ケア会議にあわせて職員に評価表を渡しておいて、個人個人で内容を検討をして、当日意見を聞くようにしている。
評価確定日	平成 21 年 1 月 6 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	<p>○<u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
	<p>地域の中でその人らしくありのままに暮らし続けるよう支援を基本理念にしているが、介護度により介護内容の検討も必要にわたる。</p>		
2 (2)	<p>○<u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
	<p>ホーム玄関や事務所に掲示し、管理者職員で理念の実践に取り組んでいる。</p>		
3	<p>○<u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
	<p>運営者とも介護の値について聞いてもらい職員と共に実践。</p>		
4	<p>○<u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
	<p>職員全員とサービスの値を話し合っており、管理者が運営者に報告し向上する努力をしている。</p>		
5	<p>○<u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
	<p>広報誌に理念を掲げたり地域のなかでホームを理解してもらうよう行事に参加してもらい、各集に訪ねてもらっている。</p>		
2. 地域との支えあい			
6	<p>○<u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえよう日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
	<p>挨拶カードにし笑顔で接したりおかしな話もしたり、話に来るもらう機会としている。</p>		
7 (3)	<p>○<u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
	<p>南所10年目に入りホームを随分理解にもなった。行事参加を促したり推進会の協力も得ておりに参加している。</p>		
8	<p>○<u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		
	<p>毎集に来るようになり利用者や介護員に力不足の困ったことへの相談している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をし 外部評価を受けこて" 質の向上をねがう。	○ 自己評価の時間をもちと 取るゆへ工夫する。
10 (5)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	ホームにも 定期的に集まる 利用者と共に お話しもらったり 会議で利用者の 要望報告として 意見を聞いたりする。	
11 (6)	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホーム 便りを 持ち行ったつ 介護申請時にも 立ち合える 状況と みるため グループホーム 研修に 参加し 職員と共に 学ぶ。	分らない時は 電話相談する。
12	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	社協職員が 研修 しているので 教えて頂く。	○ 必要人は 対応して いる 体制作りをしたい。
13	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者が 研修に行き 身体拘束の ない介護に つとめるが 家族と 悪い関係で 作らねと 気見も して いる。	
4. 理念を実践するための体制			
14	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族の不安が 多いが 契約書や 重要事項説明で 説明し、入院 退院 他施設 入所 時の 責任を 明確に 管理者が 対応している。	
15	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在は 意見の 言える 利用者 が 少ないが 存在と みるため 家族に 聞いて みる。	
16 (7)	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	体言聞き して おくが 家族に 連絡。主治医にも 報告を している。 毎月 便	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p> <p>玄関に掲示して質問は「あれば」答えられるようにする。</p>		
18 (8)	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p> <p>日常的にいつでも聞いたり頂いたりする体制。 相談窓口や第三者委員設置も文章で示している。 苦情処理も記録用紙統一で対応。</p>		
19	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p> <p>お便りも出来るほか出来る範囲のことには聞いたりもらっている。</p>		
20 (9)	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p> <p>現在は急に休む時に日替わりで難しい日休みを調整はしている。</p>	○	運営者に職員のことで聞いています。
21 (10)	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> <p>介護職の補充が難しいが職員の初任を抑えてもらっているが今年度退職者があつたぶんぶん対応したい。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>介護支援専門員などの資格も積極的に与えられる体制をとって頂きたい。 今年度は面接の研修参加が難しい。</p>	○	研修がないことは矢張り頂いていますが来年度は職員増員に参画できるようにしたい。
23	<p>○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p> <p>資格、経験などを考慮しているが新人の方も若い人採用の仕組みも。</p>		
24 (12)	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>運営会議や他のグループフォームと交流し外部評価結果も報告 共有する。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○<u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	交代勤務なので合宿参加は難しくホーム内での交流会や弁当を食べたこと。
26	<p>○<u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	○	事業所と時々回って利用者や職員の習性と肌で感じてほしい。
27	<p>○<u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>	○	同上。
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
28	<p>○<u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
29	<p>○<u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
30	<p>○<u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	○	グループホーム内の支援メニューに、2人の子のニーズを考えた。
31 (13)	<p>○<u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
32 (14)	<p>○<u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<p>〇チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の意見、本人の気持ち(話しの中から)を聞き ケース会議で職員の意見も取り 介護計画につなげる。</p>	
42 (17)	<p>〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>毎月向にこたえらおき変化が生じた時は 家族、職員と話し合、計画に反映させる。</p>	
43	<p>〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアノートにそれぞれ職員の書き込みを 共有し実践に行く。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<p>〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>本人の状況、家族の状況をつかんで 通院、入院の柔軟性をもつ管理者が主に文書</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<p>〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>選挙区民会のメンバーに声を下して 選挙区訓練、救急法、消防訓練と消防署も協力を して下さる。</p>	
46	<p>〇事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。</p>	<p>他のグループホームとの連携もして近所のお祭り の時に家族の相談にも応じる。</p>	
47	<p>〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	<p>地域協会の紹介、ケアマネージャー(居宅)と連携して サービス利用を助ける。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	はるべく聞きやあい言葉で「対応あるワミーテイル」 などで話し合う。	
57	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	出来る限りの希望に添える介護や支援をいえる。	
58	〇“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	本人の自立の把握を以て援助。時には女子の物を 買て置く。	
59 (22)	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している。	その日の状態をよくみて本人の希望に添えること 支援にこころをかけることにより	職員がその人の時をでこす 対応にこころを。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	出来る限りの希望は聞く。歩行の無理な人は ふらふらと歩けるように。	
61 (23)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	体調のよ時は出来る限りの食事は 時々女子とこいって献立に生かす。	
62	〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好品を聞いて 対応する日もある。	
63	〇気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	状況をよくみて排泄パターンを把握して 介助。紙パンツでおむつは適人にしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	<p>○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p>	○	<p>家族の了解を得てシャワー浴のみもあるが、一人で浴槽に入れる時もある。</p>
65	<p>○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68 (26)	<p>○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	○	<p>天候などに合わせて一人ずつ散歩へ行かせる。</p>
69	<p>○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		<p>本人も少しは書いて頂くとき家族が喜ばれる。</p>
71	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		<p>利用者の状況をみて適切な時は連絡している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	<p>○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		<p>家族会やたん生会への参加とあわせて外出にも家族と出かける計画がある。</p>
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		<p>ミーティングや勉強会で拘束をしないケアの重要性を話し、身体拘束からの勉強とし記録帳も作成している。</p>
75 (28)	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		<p>指導監査で身体拘束はしなくても記録帳等をと書かれたので勉強し作成した。</p>
76	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		<p>日中は鍵連とかけずに入浴時の時は家医に訪ね玄関施錠を行っている。夜勤が来ると鍵を少しおろして行く。</p>
77	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		<p>できる限り居場所の確認をしっかりと行い、話しかける。</p>
78 (29)	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		<p>転倒しやすさの程度を配慮している。</p>
79 (30)	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		<p>事故防止に身をつなぐマニュアルもあり、推進会の緊急連絡系図を作成し、消防署の訓練も予定している。</p>
80	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		<p>救急法を年一回と昨年はAED訓練も実施、連絡簿も作成している。</p>
	<p>○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		<p>連絡系図で連絡、管理者へすぐ連絡、ヒヤリハット、事故報告もきちんと発生防止に役立てる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練などと職員間で独自にも行っている。		
82	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	転倒や骨折、介護の拒否など、家族に説明はしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	早めの対応に心がけている。 近所の医師にすぐ頼めるので助かっている。		
84 (32)	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	正しい処方箋などを見て副作用が確認し 変化があれば主治医に連絡する。		
85	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分や食べ物、薬の確認をしながら 会議などで話し合ったり排泄パターンをつかむ。		
86 (33)	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後口腔ケアを行う。自分では見えない 舌苔もの取りとボリデント消毒も行う。		
87 (34)	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ノートに食事量、水分量を記録し 確認。		
88 (35)	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルにのっとってみんなが共有して 消毒も行う。		
89	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗い、消毒、冷蔵庫の食品のチェックなど 定期的に行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<p>〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	古い民家のため今の利用者や家族、近隣の方もたいへんありがたい。	
(36) 91	<p>〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。</p>	古い民家のため夜間の音の響きや、窓の入れ替え、掃除機は手持ちタイプにする。回りに庭木、花壇に花々季節感をとす。	
92	<p>〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居間で遊ぶスペースが狭いので分戸でも使用して音響をまわらせた読める工夫をして通らなくても済むようにしている。	
(37) 93	<p>〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	本人の思い、家族の思いで工夫している部屋もあり。(花壇も入れて。)	
94	<p>〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	窓の入れ替え、冷暖房の調整のために必要に行うPTVもこまめにしている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<p>〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。</p>	廊下周りに手すりをつけて歩きやすい工夫をして自分で歩行できるようにしている。	
96	<p>〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	本人の能力を見極め混乱しないような介助をする。	
97	<p>〇建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	古い民家のため段差があたりすぎるので介助して花壇を見下ろす。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> ①毎日ある <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない